

# 田舎暮らしのおすそわけ。

秋  
In Autumn



田村市グリーン・ツーリズム連絡協議会 モニターツアー



- 1日目**
- 稲刈り、サツマイモの収穫
  - 千本杵を使ったもちつき
  - 牧野の市民との交流会
  - 民泊

左／6月に植えた苗がこんなに大きく！ 黄金色の稲を丁寧に鎌で刈っていきます  
下／6月に植えたサツマイモを収穫  
左下／ツアー参加者と牧野の“お父さん”“お母さん”との交流。親戚が大集合したような和やかな雰囲気



今年度最後となる第3回目のモニターツアーは、10月21・22日の1泊2日で開催されました。今回も、田舎暮らしや田舎体験に関心のある関東圏在住の16人が田村市を訪れました。  
今回ツアーを受け入れたのは、「牧野農を活かしたまちづくり」(大越町)、「愛都路の会」(都路町)、「船引町生活研究グループ協議会」(船引町)です。

**■ 始まりは「おかえり」ただいま**

参加した16人のうち10人が、6月・8月のモニターツアーにも参加した人々。田村のお母さんやお父さんと再会すると、「おかえり」「ただいま」の第一声とともに、近況を報告し合いました。まるで親戚のおばちゃん、おじちゃんの家遊びにき

またお世話になりたい



建石 弘子さん (初参加 / 東京都)

2日間、田村の皆さんが心を込めてもてなしてくれて、心がホッとしました。民泊先の佐藤幹夫さんは、いろいろなことに興味があって話し好き。奥さんもたくさん料理でもてなしてくれて、とても楽しい夜でした。またお世話になりたいです。

「船引町生活研究グループ協議会からエゴマ入りうどんを教わりました作りました」



2日間お世話になったお礼に肩もみのプレゼント

私も田村の人みたいに



大澤 輝子さん (2度目の参加 / 東京都)

米や野菜は、食べるのはあつという間ですが、作るのはとても大変だなあと感じます。まとめる人がいると、自然と人は集まってくるのです。田村は、自分もそういう人になりたい、思わせてくれる場所です。



**■ 田村をふるさとに**

たような姿が印象的でした。参加者は稲刈りや野菜の収穫を体験。6月のモニターツアー(市政政日より7月号参照)の田植えでは青かった苗が、夏を過ぎて黄金色に実った姿に、改めて感動していました。  
そして夜は、7組に分かれて民泊を体験しました。

「あゝ、終わっちゃった。疲れたけど楽しかったね。また来てくれるといいな。」  
帰りのバスを見送った後、参加者を受け入れた一人が、思わずそう漏らしました。  
今年度のツアー3回を通して、大越町牧野の皆さんは、自分たちの住む地域で参加者にどう楽しんでもらうか、懸命に考えてきました。苦勞もあつたはずですが、「楽しかった」と笑顔になれたのは、参加者と素晴らしい時間を共有できたからでしょう。その共有時間が増えれば、参加者はさらに田村市を「ふるさと」と感じてくれるのではないのでしょうか。

- 2日目**
- 郷土料理づくり(エゴマ入りうどん・新粉まんじゅう)
  - 歴史民俗資料館の見学(羽釜でお芋ふかし)
  - 「愛都路の会」の語り部によるおはなし会

右／歴史民俗資料館で懐かしい竹とんぼを飛ばしました  
左／「愛都路の会」の渡辺徳子さんのおはなしを聞きながら団らんのひとつ



佐藤 幹夫 さん

民泊を受け入れた「牧野農を活かしたまちづくりの会」

いつもどおりの姿に親しんでもらえた

せっかくの機会なので民泊の受け入れを希望したものの、プレッシャーで仕事に手がつかないほどでした。最初はきどってみせようと準備していましたが、都路町で民泊を営む知人から「ありのままの姿が一番」と言われ、長く続けていくためにいつもどおりの姿を見せようと思えました。  
受け入れてみると、あつという間でした。宿泊したのは女性のお二人。明るく元気で優しく、思わず恋に落ちそうになりました(笑)。いろいろな話をしましたが、「親近感がわく」と言われたことが特に印象に残っています。どうやら私がお一人のお父さんに似ているらしく、「私のような父では大したことないね」と笑い話に。短い時間でも親近感を持ってもらえたことが嬉しかったですね。特別な時間でした。



民泊先の方と懇親を深めた参加者